

広葉樹コンテナ苗生産技術の検討（R3～7）

国補：林業普及情報活動システム化（林業試験研究情報調査）

久保 健・若山 学

1. はじめに

令和2年4月に「奈良県森林環境の維持向上により森林と人との恒久的な共生を図る条例」が施行され、これに基づき令和3年度から開始される「混交林誘導整備事業」では、「地域に適応した高木種」としてケヤキ、ミズナラ、トチノキ、カエデ類等が示されているが、これらのコンテナ苗育苗にかかる知見は未だ少ない。本課題においては、これまで林業樹種（スギ、ヒノキ）について蓄積した技術を基に、導入対象となる広葉樹にかかるそれぞれの育苗特性を明らかにし、そこで得られた知見を生産者に普及する。

令和6年度では、広葉樹ポット苗生産方法に関する情報を収集するとともに、広葉樹コンテナ苗の大型化試験を進めた。

2. 材料と方法

広葉樹苗コンテナ苗の大型化試験

高取町内で採種したヤマザクラ（センター内）及びケヤキ（高取城趾）種子を播種し発芽した幼苗を、大型Mスターコンテナ及び大型ポット（いずれも約 1,500cc）に移植して（4月下旬）、微量の液肥を与えて育苗したものについて、令和6年度初夏（5月下旬）に、次の粒状緩効性肥料（ハイコントロール：ジェイカムアグリ(株)）を与えた。その後の成長（苗高：8月、11月、翌4月初旬、地際直径：翌4月初旬）について計測した。

- ① Mスターコンテナ 085-90 1g
- ② Mスターコンテナ 085-90 2g
- ③ 大型ポット 085-90 2g

3. 結果と考察

広葉樹苗コンテナ苗の大型化試験

1年後の成長については、苗高・地際直径ともに、ヤマザクラでは②>③≒①の順となり、ケヤキでは③>②>①の順となった。

また、ケヤキの場合、秋伸び・春伸びとも一定の成長が見られたが、ヤマザクラの場合は、秋伸びは僅かで翌春の成長が著しかった。昨年は夏期の降水量が少なく高温期が長期化したため、植物にとって生育条件が厳しかったと思われる。また、大型ポットとMスターコンテナとの成長の違いについて不明な点が残った。

今年度、秋播種により早期に成長を促すことによる育苗の有利性が示唆されたが、樹種による生育特性が異なる可能性が認識できた

今後、より短期間で苗を大型化し、かつ定植・活着後に適切に生育できる育苗技術について検討が必要であると考えられた。

それらの知見を、県内の広葉樹種苗生産者へ情報提供・技術普及するとともに、生産現場で発生する課題について解決に努めることとする。